

研究室から

ます。

や猫の寿命も、近年良質な食餌や獣医学の発展で長寿化が進みました。その結果犬や猫でもがんが発生する事が多くなりました。

私たちは応用生物科にも取り組んでいます。飼い主の皆さまに心配されるよう最新テンドングに対しても、線治療装置を用いていがん治療を貢献で

「犬や猫のがん」治療法探る

犬は比較的がんが発生しやすく、老齢犬の死亡原因の第1位はが



きるよう日々努力しています。

また、私たちの研究

室では人間と犬や猫のがんを比較した「比較

りでなく人間にも利益がもたらせるような成

日本人の死」「原因の第1位は悪性腫瘍（がん）ですが、これは日本で、実に全体の半数以上を占めています。猫の死」「原因も、やはり人が1980年代以降長寿化しているためといわれています。大です。

私たちは犬や猫ばかりでなく人間に、外科手術、放射線治療や抗がんの克服を目指し、果を目指して研究を進めています。

例えば、犬の中でも

がんの発生が多い、ゴ

ールデンレトリバー、ラブラドルレトリバー

やバーニーズマウン

テンドッグに対しても

かつ専門的で質の高いのがんの発生を予防できる

かという研究や実験室

でがん細胞を用いて腫瘍の早期発見のためのバイオマーカー

や新規治療法の確立を目標に研究をしていま

す。